

日本独文学会第71回総会
春季研究発表会

2017年5月27日(土)・28日(日)
第1日 午前10時より
第2日 午前10時より

会場 日本大学文理学部

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40
Tel. : 03-5317-9712 (ドイツ文学科事務室直通)
e-mail: tagung2017nichidai@jgg.jp

参加費 : 1,500 円 (学生、常勤職のない会員は 1,000 円)

日本独文学会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-34-6 南大塚エースビル 603
Tel./Fax 03 - 5950 - 1147
メールフォーム : <http://www.jgg.jp/mailform/buero/>

プログラム

第1日 5月27日(土)

開会の挨拶 (10:00~10:05)

百周年記念館国際会議場

森田 悟

総会 (10:05~11:30)

百周年記念館国際会議場

- | | |
|---------------------|--------|
| 1. 会長挨拶 | 大宮 勘一郎 |
| 2. 議長囑任 | |
| 3. 庶務報告 | 室井 禎之 |
| 4. 渉外委員会報告 | 浜崎 桂子 |
| 5. 会計報告 | 岡本 順治 |
| 6. 編集委員会報告 | 井出 万秀 |
| 7. 企画報告 | 齊藤 涉 |
| 8. 広報委員会報告 | 生駒 美喜 |
| 9. データベース委員会報告 | 藤縄 康弘 |
| 10. 文化ゼミナール委員会報告 | 増本 浩子 |
| 11. 語学ゼミナール委員会報告 | 森 芳樹 |
| 12. 教授法ゼミナール委員会報告 | 星井 牧子 |
| 13. ドイツ語教員養成・研修講座報告 | 保阪 良子 |
| 14. 研究叢書報告 | 保阪 良子 |
| 15. ドイツ語教育部会報告 | 新倉 真矢子 |
| 16. 支部報告 | |

- 議事
1. 2016年度決算書および2017年度予算案について
 2. 会員互選による理事の囑任について
 3. 支部および部会選出理事の囑任について
 4. 監事の囑任について
 5. 会費規程の改正について
 6. その他

会員意見開陳

日本独文学会賞授賞式 (11:40~12:10)
百周年記念館国際会議場

ドイツ語学文学振興会賞授賞式・総会 (12:15~13:15)
百周年記念館国際会議場

ドイツ語教育部会総会 (12:40~13:10)
A 会場 (3505 教室)

口頭発表：文学 I (14:30~17:45)
A 会場 (3505 教室)

司会：初見 基・渡邊 徳明

1. スイス滞在時代のヴィーラント 今村 武
2. 空想を語る意識の目覚め
—ヴィーラントの『アブデラの人々』における詩学と歴史哲学 北原 寛子
3. 「水の女」は泣いたか —『ウンディーネ』、『人魚姫』、
『漁師とその魂』における魂の獲得と放棄について 須藤 温子
4. 「純粋な言葉」と「要因となる言葉」
—ヘルダーリン『ソフォクレス注解』における悲劇性について 林 英哉
5. 文学の言葉と技術の言葉
—ハイデガーの詩的言語論をめぐって— 木本 伸

口頭発表：文学 II (14:30~17:05)
B 会場 (3507 教室)

司会：大羅 志保子・真道 杉

1. アルトゥル・シュニッツラーの北方のエキゾチズム
—『夢小説』におけるデンマークのモチーフ 徳永 菜摘野
2. ボブロフスキー『レヴィンの水車小屋』における
自然・歴史・語り 関口 裕昭
3. ゲジーネ・クレスパールの理想と憂鬱
—ウーヴェ・ヨンゾンの詩学原理としての現代性 金 志成

4. Orientalisch-deutsche Neuerscheinungen zwischen Flüchtlingskrise
und Weltliteratur

Herrad Heselhaus

口頭発表：語学（14:30～17:45）
C会場（3503教室）

司会：安達 信明・板倉 歌

- | | |
|---|--------|
| 1. 補文の仮想性／現実性と対格の相関詞 <i>es</i> の出現 | 井坂 ゆかり |
| 2. ドイツ語の <i>w</i> 感嘆文における動詞の位置とその意味論 | 伊藤 克将 |
| 3. ドイツ語の現在完了形と過去形の意味的相違と未来形と
現在形の意味的相違の並行性について | 嶋崎 啓 |
| 4. 低地ドイツ語における「不定詞+ <i>doon</i> 」迂言形の特徴 | 覚知 頌春 |
| 5. ドイツ語からみたアフリカーンス語とオランダ語における
迂言形による始動相表現 | 山藤 顕 |

ブース発表 I（14:00～15:30）

（ブース発表は途中での出入り自由です）

E会場（3401教室）

「ゲーミフィケーション」を利用したドイツ語授業の試み
—実践報告と今後の課題

平松 智久

ブース発表 II（16:00～17:30）

（ブース発表は途中での出入り自由です）

E会場（3401教室）

Der 9. November 1989 – Didaktisierung des Erinnerungsortes nach dem
kulturwissenschaftlichen Ansatz

David Fujisawa

ブース発表 III (16:00～17:30)

(ブース発表は途中での出入り自由です)

F 会場 (3402 教室)

カール・アインシュタインにおけるプリミティヴィズム
—芸術を紐帯とする新たな世界像構築をめざして

鈴木 芳子

ポスター発表 (13:00～14:30)

(ポスターは期間中を通じて掲出されています)

G 会場 (4 階フロア)

Vermittlung sozio-pragmatischer Fähigkeiten in der Zielsprache
durch integriertes Lernen

Axel Harting

Validierung zur Wirksamkeit von Grammatikanimationen
an japanischen Universitäten

Luisa Zeilhofer

ドイツ語教育部会

「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示・発表 (13:00～17:30)

H 会場 (3502 教室)

懇 親 会 (18:00～20:00)

会場：3号館1階 カフェテリア 秋桜 (コスモス)
会費：6,000円 (学生・常勤職のない会員は4,000円)

第2日 5月28日(日)

シンポジウム I (10:00~13:00)

A会場 (3505教室)

ポスト・ハプスブルク神話
—グローバル化とローカルな土着性の狭間に動く
オーストリア現代文学

**Nach dem Habsburgischen Mythos - Zeitgenössische österreichische Literatur
zwischen Globalisierung und lokaler Verwurzelung**

司会：土屋 勝彦

1. オーストリア現代文学ゼミナールと日本における
オーストリア文学研究 真道 杉
2. Zurück in den Habsburger Mythos?
Über den komplexen Zusammenhang von Schreiben und Reisen
im Werk von Peter Rosei Walter Vogl
3. 現代オーストリア文学における周縁からの世界の見方
—グローバルとローカルの間で 徳永 恭子
4. Offene Grenzen. Flucht und Vernetzung, Aufbruch und Migration
in der österreichischen Gegenwartsliteratur Martin Kubaczek

シンポジウム II (10:00~13:00)

B会場 (3507教室)

ハインリッヒ・フォン・クライスト
—政治的詩人か政治的なるものの詩人か

Heinrich von Kleist – ein politischer Dichter oder der Dichter des Politischen

司会：大宮 勘一郎

1. 流動化する国家
—クライストの政治的著作における共同体の問題について 橘 宏亮
2. 機械仕掛けの国父—クライストにおける〈君主〉の形象 西尾 宇広
3. クライストにおける「報告」の身振り 林立騎
4. 『ペンテジレーア』—「政治的なるもの」と「愛」— 大宮 勘一郎

シンポジウム III (10:00~13:00)

C 会場 (3503 教室)

固有名と虚構性

Namen und Fiktionalität

司会：前田 佳一

1. ヘルダーリン『盲目の詩人』から『キローン』への
改稿における固有名の役割 小野寺 賢一
2. ジャン・パウル『自叙伝』における作者の固有名 江口 大輔
3. 名と体、そして幻
4. トーマス・マン『すげかえられた首』における名前の問題— 木戸 繭子
4. ハイミート・フォン・ドーデラーとインゲボルク・バッハマンのウィーン 前田 佳一

シンポジウム IV (10:00~13:00)

D 会場 (3508 教室)

親密さの言語

18 世紀の人間関係の表現とその読解の試み

Sprache der Vertraulichkeit

im Spiegel der menschlichen Beziehungen des 18. Jahrhunderts

司会：吉田 耕太郎・高田 博行

1. 親密さを表現する—書簡文化の視点からみた 18 世紀の人間関係 吉田 耕太郎
2. アーデルングにおける親密さと儀礼
—「言語交際術」の書としての辞書 高田 博行
3. 親密さの政治学—ヴィーラント『アリスティッポス』
における愛とコスモポリタニズム 菅 利恵
4. 新たな親密空間に向けて—初期ロマン派における文字の思想 武田 利勝

シンポジウム V (10:00~13:00)

I会場 (3405 教室)

生きのびるための外国語教育と
異文化間コミュニケーション能力養成

Fremdsprachenunterricht und Förderung interkultureller Kompetenzen

– besser überleben in einer sich ständig wandelnden Welt –

司会：草本 晶・田原 憲和

1. 生きのびるための教育としての異文化能力育成 渡辺 文夫
2. 異文化間シティズンシップのための言語教育
ーランデスキング・フィールドワークと学び合いー 中川 慎二
3. すべては驚きからはじまる 大滝 修
4. Interkulturelle Kommunikation sowie Deutschunterricht
an der Technischen Hochschule Muroan Margit Krause-Ono

シンポジウム VI (10:00~13:00)

J会場 (3407 教室)

ドイツ語の場面レベルと個体レベルの表現タイプ
Stage-level- vs. individual-level-Typen im Deutschen

司会：宮下 博幸・小川 暁夫

1. 人を表す名詞の表現形式一場面レベルと個体レベル 坂賀 翠・小川 暁夫
2. 不変化詞動詞に現れる個体レベル述語 和田 資康
3. be-動詞における意味機能の個体レベル化 段上 佳代
4. 与格名詞句による形容詞構文の場面レベル化 井口 真一
5. werden 受動の可否と述語の特性一場面レベルと個体レベル 武田 有里子・宮下 博幸

ポスター発表

(ポスターは期間中を通じて掲出されています)

G 会場 (4 階フロア)

ドイツ語教育部会

「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示・発表 (10:00～12:00)

H 会場 (3502 教室)

閉会の挨拶 (13:05～13:10)

A 会場 (3505 教室)

大羅 志保子

研究発表会期間中、上記のプログラムに加えて、書店・出版社等による書籍展示が行われます。(書籍展示会場：5 階フロア)